

基本目標 1 スポーツへの参加機会の充実

(1) 子どものスポーツ推進

【現行計画 戦略1-施策1(1)】

① 施策推進の方向性について

これまでの取組の考え方	次期計画でふれるべき視点等
<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツは青少年の健全な発達に資し、心の豊かさや生きがいを与えてくれるもの ・外遊びやスポーツ活動の時間は減少 ・社会環境や生活様式が変化している ・家庭、地域、学校が協力してスポーツの楽しさや効果を実感し、体力・運動能力を高めることが重要 ・仲間とともにスポーツに親しめる環境の整備が重要 	<ul style="list-style-type: none"> ・外遊びやスポーツ活動の時間は減少 ・家庭、地域、学校が協力してスポーツの楽しさや効果を実感し、体力・運動能力を高めることが重要 ・子どもに対する効果的な情報提供 ・保護者へのスポーツ理解の促進

② 庁内作業部会の意見の整理

意見交換の要点	今後検討できるとよい意見
<ul style="list-style-type: none"> ・運動やスポーツをしない(知らない)子どもへの情報(スポーツの魅力)提供、きっかけづくり ・子どもをスポーツ嫌いにさせない ・運動やスポーツを気軽にできる環境整備(場所、指導者) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「見る」スポーツの推進(事務局案)

③ 指標となる考え方

- ・運動やスポーツがきれい(「どちらかといえばきれい」「きれい」の合計)という回答を減らす
- ・「現在、スポーツを行っていない。また、これから先も、するつもりはない。」という回答を減らす

④ 推進施策(案)

- ・身近な学校の放課後の利用ができるように地域が連携して支える
- ・公園、スポーツ広場、学校開放など身体を動かすことができる場所の情報提供を行う
- ・身体を動かすことに興味を持てる(きっかけづくり)環境を整える

① 施策推進の方向性について

これまでの取組の考え方	次期計画でふれるべき視点等
<ul style="list-style-type: none"> ・ 終業後にスポーツをしたい人への対応が求められている ・ 家族単位を対象としたプログラムの充実、夕方以降の時間帯の教室の充実 ・ 施設の利用基準の見直しや夜間照明の整備、利用時間の延長と周辺住民の理解が課題 	<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革による余暇の増加 子育て期におけるスポーツとのかかわり方

② 庁内作業部会

意見交換の要点	今後検討できるとよい意見
<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康づくり(する)観点から健康推進課で様々な取組が行われているが、スポーツ振興課との連携、情報共有が十分でない。充実していけるとよい。 ・ スポーツに取り組む動機付けを考えていくことが重要ではないか。 ・ 働き方の変化に伴い余暇が増加する。どのようにその時間でスポーツに取り組んでもらうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「見る」「支える」スポーツの推進(事務局案)

③ 指標となる考え方

- ・ 健康経営企業数を増加させる
- ・ (特に実施率の低い) 30～49歳のスポーツ実施率を向上させる

④ 推進施策(案)

- ・ 企業単位で行えるスポーツ情報の提供を行う
- ・ 民間のスポーツジムと連携し、利用しやすい環境を整える
- ・ 大学・企業の研究を利用したスポーツの習慣化を図る
- ・ 子育てに関わる身体活動をスポーツと捉える

① 施策推進の方向性について

これまでの取組の考え方	次期計画でふれるべき視点等
<ul style="list-style-type: none"> ・ 競技スポーツを行う人は少なく、軽スポーツを行う人は多い ・ 健康づくりや生きがいづくりへの要望は多い ・ 介護予防や予防医療をふまえたスポーツの推進が求められている ・ スポーツ等を通じた地域のつながりづくりが求められている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町内会・自治会、高齢者福祉課と連携して事業を実施する ・ 孫や地域の子どもなどの多世代交流をきっかけとして、高齢者のスポーツ参加をうながす ・ 高齢者のスポーツの実施状況は二極化しているのではないか

② 庁内作業部会

意見交換の要点	今後検討できるとよい意見
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者といっても就労の有無や健康状態など生活環境が異なる。 ・ スポーツ観戦をきっかけに地域や他の世代と交流できるとよい。 ・ アクティブな高齢者は主体性をもってスポーツを行っている。生涯スポーツ（ボッチャ）が流行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者のターゲットの整理 ・ 高齢者のスポーツに関するニーズ、課題の整理 ・ リタイア後の男性の、スポーツを通じた地域参加

③ 指標となる考え方

- ・ 「現在、スポーツを行っていない。また、これから先も、するつもりはない。」という回答を減らす
- ・ スポーツの観戦について「町田市内の会場で観戦した」という回答を増やす

④ 推進施策（案）

- ・ スポーツを通じた地域参加による多世代間交流を推進する
- ・ 自主的に活動するグループに対し、新たな取り組みを促す
- ・ 団体スポーツの推進をする

① 施策推進の方向性について

これまでの取組の考え方	次期計画でふれるべき視点等
<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツを楽しめる環境が十分でない ・気軽に楽しめるプログラムの提供や指導員の育成が求められている ・市内に多く在住している障がい者アスリートの活動・活躍の場、機会の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者と健常者の両者の障がい者スポーツに対する理解を促進する (インクルーシブスポーツの視点も含む) ・「町田市障がい者計画」と連携して事業を実施する ・スポーツを継続できる環境を整備する ・障がい者のスポーツのニーズを把握する ・競技団体の障がい者スポーツへの理解を促進する

② 庁内作業部会

意見交換の要点	今後検討できるとよい意見
<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツが苦手、できない(やろうと思っていない)人が気軽に参加できる環境の整備、情報提供 ・障がい者団体も組織だった活動や横の連携は十分でなさそう ・障がいの種別によって状況は大きく異なる 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報提供の方法 ・「みる」「支える」スポーツの推進 ・共生社会の実現に向けた取組

③ 指標となる考え方

- ・障がい者スポーツの理解促進(パラリンピックの観戦者数を増やす)
- ・スポーツの取組を実施する障がい者団体を増やす

④ 推進施策(案)

- ・公園、スポーツ広場、学校開放など障がい者が身体を動かすことが出来る場所の情報提供を行う
- ・障がい者団体に対し、スポーツの普及啓発を図る
- ・障がい者のスポーツ環境を整える
- ・パラリンピック開催を契機として、障がい者スポーツの理解促進を図る

基本目標 2 スポーツに関わる人材と組織の充実

(1) スポーツを支える人材の育成

【現行計画 戦略 1-施策 2 (2)】

※「指導者の育成」から「スポーツを支える人材の育成」に変更

現行計画では、施策 2「市民スポーツの環境づくり」において人材育成の観点からスポーツ指導体制の充実等を主旨として課題、推進施策が整理されてきました。また、施策 4「トップスポーツの環境づくり」においては、「スポーツ祭東京 2013」で参加したボランティアの組織化、育成についてもふれられていました。

次期計画の骨子案では「指導者の育成」を基本施策としていましたが、人材育成の視点は、競技面での指導力の向上に限らず、ボランティアへの参加促進や障がい者スポーツへの理解促進といった普及啓発を経て、スポーツを「支える」人材を育成していくことが重要ではないかといった議論、意見交換をふまえ、「スポーツを支える人材の育成」に変更したいと考えています。

① 施策推進の方向性について

これまでの取組の考え方	市民のスポーツ参加機会を充実（基本目標 1） するための人材育成の考え方	次期計画でふれるべき視点等
<ul style="list-style-type: none">・スポーツ人口を増やすための指導体制の充実が必要・「スポーツ祭東京 2013」で活躍したボランティアの組織化、育成・スポーツ指導員を充実する	<ul style="list-style-type: none">・子どもがスポーツを好きになるきっかけをつくることのできる人材の育成・働き盛り世代・子育て世代のニーズに応えることのできる人材の育成・高齢者のニーズに応えることのできる人材の育成・障がい者と健常者の両者の視点にたちスポーツを指導、サポートできる人材の育成（インクルーシブスポーツの視点も含む）	<ul style="list-style-type: none">・地域ごとにスポーツ指導ができる人材の配置する（または、共有する）・スポーツを支える人材育成のために、資格取得を推進する・継続的なボランティア活動の場・機会を充実する・大学等と連携して専門性を有した人材育成に取り組む

② 指標となる考え方

- ・障がい者スポーツ指導員の資格取得者数を増やす

※「スポーツ団体の育成」から「スポーツを支える団体の支援・育成」変更

現行計画では、施策2「市民スポーツの環境づくり」において地域スポーツクラブの設立支援、スポーツ施設の指定管理者によるニーズ把握、ホームタウンチームへの支援と協働について課題、推進施策が整理されていました。また、施策4「トップスポーツの環境づくり」においては、町田市体育協会及び傘下の団体との情報共有についてもふれられていました。

次期計画の骨子案では「スポーツ団体の育成」を基本施策としていましたが、団体の支援・育成の視点では、スポーツ団体の支援だけでなく、町内会・自治会、障がい者団体といった、主たる活動目的がスポーツではない団体とも連携・協働し、「スポーツで人とまちが一つになる」という将来の姿を実現していくといった議論、意見交換をふまえ、「スポーツを支える団体の支援・育成」に変更したいと考えています。

①施策推進の方向性について

これまでの取組の考え方	市民のスポーツ参加機会を充実（基本目標1） するための団体の支援・育成の考え方	次期計画でふれるべき視点等
<ul style="list-style-type: none"> ・地域スポーツクラブの設立、運営を支援する ・まちの魅力向上や活性化のためにホームタウンチームを支援する ・スポーツ団体との情報を共有する 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもがスポーツを好きになる機会（イベント・教室の開催）を提供する団体の支援・育成 ・働き盛り世代・子育て世代のニーズに応えたイベント・教室を提供する団体の支援・育成 ・高齢者のニーズに応えたイベント・教室を提供する団体の支援・育成 ・競技を通して、多世代の交流を促進する団体の支援・育成 ・町内会・自治会、障がい者団体等におけるスポーツの取組を支援、促進していく 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツを支える団体と市で、スポーツ推進のビジョン（計画で掲げた将来の姿）を共有する ・スポーツを支える団体間で連携した取組を充実する ・スポーツをきっかけとして、障がい者団体間の横のつながりをつくる ・計画の基本理念の実現に向けた活動を実践する団体を支援する

②指標となる考え方

- ・スポーツ推進計画の基本理念の認知度を向上する
- ・ホームタウンチームの認知度を向上する